

中学校編 第1部 3 『『生きている』をよく見て考えよう』

- 1 学年 第3学年
- 2 主題名 生命尊重
- 3 内容項目 3－(1) 生命の尊さを理解し、かけがいのない自他の生命を尊重する。
- 4 テーマ B かけがいのない命、生と死の重さ
- 5 主題設定の理由
 - (1) ねらいとする価値
近年、暴力や殺人、自殺や虐待等、自他の「生命」が軽視された事件や事故が、新聞や雑誌等で多数報道されるようになった。このような現代において、「生きている」という実感を持ちながら、よりよく生きようとする心を育てたい。
 - (2) 資料について
本資料では、作者の考えをもとにして、多様な生き物が長い時間の中で誕生した様子が「生命誌絵巻」として図示されている。その中で、人間は自然界の一種の生物であり、ごく最近できた生物であるとしている。人間の生命のみならず、身近な動植物をはじめ生きとし生けるものの生命の尊厳に気付くことができるように、生物学的観点から示している。また、あらゆる視点から「生命」を考えることによって、「生きている」ことの素晴らしさを考えさせることのできる資料である。
- 6 各教科等との関連
理科「生物のつながり」食物連鎖との関連
- 7 本時のねらい
生命の大切さを多様な視点から考え、その自覚や責任感を持ちながら、将来に向かってよりよく生きていこうとする態度を育てる。
- 8 授業改善の視点

- (1) 資料の活用
執筆者である中村桂子さんの写真等を提示し、学習への興味関心を高めるとともに、資料内容の理解を深める。
- (2) 「京の子どもへ夢大使派遣事業」との関連付け
本事例は、道徳の時間に本資料で学習した後、実際に中村桂子さんのお話を聞くことでより深く「生命の尊さ」を考えさせることができる。

9 本時の展開

過程	学 習 活 動	主 な 発 問 予想される生徒の反応	指導上の留意点	資料・評価 等
導 入	1 「生きている」ということについて話し合う。	○皆さんが「生きている」と実感できるときはどんなときですか。 ・ご飯を食べているとき。 ・新しい生命に出会ったとき。 ・命にかかわる危機に遭遇したとき。	・「生きている」について実感できることをイメージさせる。	
展	2 資料を読む 資料から読み取れる「生命（いのち）」について考える。	○「生命（いのち）」とはどんなものなのでしょうか。 ・生命は見えないけど、生きているということ。 ・つながっているもの。	・人間は地球上に存在する数千万種の生物の中の1種であることを理解させる。	「京の子ども 明日へのとびら」

開		・38億年ほど前に生まれた細胞から、現在地球上にいるすべての生き物までがつながっているもの。 ○食事をする時「いただきます」と言うその意味は、どういった意味なんだろうか。 ・食事の挨拶、マナー ・何気なく言っている言葉 ・食事のために生命を提供してくれた動植物に対しての感謝 ◎「生命を大切にする」ということはどうことなのでしょう。 ・殺さない。命を守る。 ・無駄な殺生はしない。 ・一生懸命生きる。 ・自分や他人を大切にする。	・生命は永遠ではないということを理解させる。 ・人間も他の生命をもらって生きていることを実感させる。 ・理科で食物連鎖を学習しているので、そのことを思い出させる。 ・自己の生命の尊厳、尊さを深く考えさせる。（そのことで、自己以外の生命も同様に大切にできる。）	生命を大切にすること、自他の生命の尊厳を大切にすることであることに気付く
	3 生命誌絵巻を見る。 筆者に感想・質問文を書く。 記入した内容を発表する。	○人間はどこにいますか。なぜ、人間なのにこんなに小さく書かれているのでしょうか。この生命誌絵巻を見て感じることは何ですか。 ・結局人間も、生物の中の1つの存在でしかないから。 ・生命あるものは互いに支え合って生き、生かされていると感じる。	・普段人間は生物の頂点を極めたものという意識が強いが、自然界ではたった1種の、しかも、ごく最近出現した生物に過ぎないということを読み取らせる。	感想文記入シート
終 末	4 教師の話を聞く		・「生命（いのち）」の大切さについて余韻を残すように伝える。	

10 板書計画

「生きている」をよく見て考えよう 「生きている」を実感できるとき ・ご飯を食べているとき。 ・新しい生命に出会ったとき。 ・命にかかわる危機に遭遇したとき。 「生命（いのち）」とは ・生命は見えないけど、生きているということ。 ・つながっているもの。 ・三十八億年ほど前に生まれた細胞から現在地球上にいるすべての生き物までつながっている。 「いただきます」とは ・食事の挨拶、マナー、何気なく言っている言葉。 ・生命を提供してくれた動植物に対しての感謝の言葉。 「生命を大切にする」とは ・殺さない。命を守る。無駄な殺生はしない。 ・一生懸命に生きる。 ・自分や他人を大切にする。 生命誌絵巻を見て ・結局人間も、生物の中の1つの存在でしかないから。 ・生命あるものは互いに支え合って生き、生かされていると感じる。
--

11 生徒の反応等

中村桂子先生の話聞いて、人間はいつも自分たちは他の生物を支配しているようなことを言い、そのことを実行しているような感じがあるが、生命誌絵巻の説明にあったように、人間も生物の中の1つにすぎないことがあらためて分かった。普段生活している中では、蚊に刺されそうだから叩いて殺したり、地面にしゃがんでみるとアリが歩いていたので潰してみたりと、周りの生物をとっても簡単に殺していても罪悪感なく暮らしていた。心の中のどこかでは、邪魔なものはいなくなった方が自分は快適に暮らせるので「良い」という考えがあったのだと思う。どれだけ小さくても、どれだけ弱くても、生きていて、その命は1つしかないとても尊いものなのだ。それを今日あらためて気付かされたような気がする。

生き物の起源はすべて同じ。偉そうにしている人間も、必死に働いて毎日を生きているアリなどもみんな同じ。それらはすべて「つながり」を持っているということを中村さんは言いたいのだと思う。お互いが助け合い、共生していくことで生物は生きていけるのだと分かった。イチジクの中で子どもを育てる小バチは意図的にイチジクの花粉を受粉させているわけではない。また、反対にイチジクが実をつけるのは、小バチがそこで子どもを育てられるようにしたわけでもない。生き物は自分が一生懸命生きようとしている中で、他の生き物を結果的に助けているのだと、事例を出していただいたのでとてもよく理解できた。

私は、環境について興味がある。環境の中には人間が作り出したものもあるが、他の生き物が作り出したものが多いと思う。この地球という素晴らしい環境で生活させてもらっているということを忘れずに、また、他の生き物のことを考えて、これからの生活を送っていきたいと思う。

生命のことって、とっても大切なことだと僕自身わかっていて。でも、よくよく考えると、最近そんなことを考える機会がとても少なかったように思う。新聞紙上では生命をいとも簡単に殺したとかいう事件をよく目にするが、僕らの生活には全く関係のないものだと感じていた。戦争ゲームや各種格闘ゲームなんかのバーチャルな世界では、敵を殺しまくっている自分もいる。もちろん現実ではなくバーチャルな世界なんだし、深く考える必要はないのかもしれない。しかも別に誰かに迷惑をかけているわけでもないんだから、とやかく言われる筋合いはない。でも、確かに身近には生命について軽視するようなものが多いかもしれない。

食事をしていて、「生命をいただいている」なんてことを考えたこともなかった。確かに「肉はうまい」って思っているけど、その肉は牛なんだから、殺されているわけなんだ。パンだってご飯だって、小麦や稲の種子なんだから。子孫を残すための大切な生命なんだ。じっくり考えてみると、食べ物ってすべてなんらかの生命だったんじゃないかって思う。

理科の時間に習った、有機物というのは「生命あるものそのもの」だったんじゃないかとも感じている。

結局は、僕たちは生命あるものに生かされていたんだと分かってきた。だからこそ、僕らやみんなの生命を大切にしなければいけないんだと、今日の講演を聴いて感じた。